

思考の脳

脳科学のお話です。運動と五感の脳は、おおむね5歳ぐらいで大人のほぼ9割以上まで成長が進みます。その後はあまり大きく成長しません。したがって、幼児期、保育期における様々な活動がとても重要になります。その頃にいかに多彩（たさい）な運動や経験をし、感覚を使ったかで、子どもたちの運動と五感の脳という器（うつわ）が決まってしまいます。 * 五感 視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚の5つの感覚

一方、思考の脳は、0歳から5歳まで急激に発達し、その後、思春期の入り口まではゆるやかに発達します。そして、思春（ししゅん）期に入った途端（とたん）に、また爆発的に発達が続いて30歳ぐらいまでゆっくりと発達が続きます。思考の脳に関しては、思春期以降、自分の力で自分の脳を成長させるチャンスがあるということになります。

思春期とは、心身ともに子どもから大人に変化する時期のことです。これには個人差があり、何歳から何歳までと決まっているわけではありません。一般的には、小学校高学年から高校生の年代にあたります。ということは、皆さんが中学生である3年間は思春期となります。

思考とは、考えることです。思考力という言葉もあります。学力の中でも大切な力の一つです。中学校の3年間で、思考の脳、すなわち考える力が爆発的に発達するというわけです。

5歳までなら自分の力では難しかったかもしれませんが。しかし、思春期である中学生の間は、中学生だからこそ、自分の力で考える力を伸ばすことができるのです。中学生には、チャンスが与えられているのです。

では、皆さんは、普段からどのくらい考えているのでしょうか。各教科の授業の中で、学習課題や先生から聞かれたこと、友達が発言したことに対して、今までの知識や経験、学んできたことなどをもとに、どのくらい考えているのでしょうか。考えたことは、書いたり話したりしているのでしょうか。

皆さんのまわりには、様々な情報があふれています。それらを鵜呑み（うのみ）にしてはいないでしょうか。ちょっと待てよ、本当にそうなのかという姿勢をもつことも大切です。一つの情報から自分なりに考えてみる、これがポイントです。

情報は目まぐるしく変化していきます。この前の情報が、すぐに役に立たなくなることもあります。情報を覚えることが重要なのではなく、情報からいかに考えることができるかがカギとなります。

今からでも遅くはありません。高校生まだが勝負です。自分の力で自分の思考の脳を爆発的に鍛（きた）えていきましょう。

* 鵜呑み 物事の意味を十分に理解しないまま他人の意見などを受け入れること。